

企画理由

- ①「増えて欲しいもの」は何か？
⇒姫路観光客・お金・姫路に住む人・観光地(増やすというよりも開拓したい)
- ②「減ってほしいもの」は何か？
⇒観光情報を調べる時間・税金・待ち時間・無駄な情報(重複した情報)
- ③「変わらずにあって欲しいもの」は何か？
⇒人と人とのつながり・連携

⑤プロジェクトの 主要な活動内容	⑦プロジェクト の協力者	①プロジェクトの具体的な内容 (商品・サービス・イベントの内容)	③どのような 関係を作るか？	②対象とする人 ・想定利用者
1構想 観光ルートの作成(魅力的な) (2)構築 2, システムの構築 (3)広める 3, ジョインする会社を募る 4, アプリを魅力的に 5, 魅力的なアプリを広める 6, コンベンションビューローなどへの協力要請 7, 旅行者などへの(4)活用 8, 姫路に来たリピーターなどへの口コミ ※もともと姫路観光客はリピーターが少ないイメージ、情報や経験を蓄積してリピート率を増やす。 ・姫路出身芸能人などへの協力要請。※丘みどり・ミルクボーイetcetc	姫路コンベンションビューロー・市役所・姫路市民・地域事業・F Cを除く飲食店 リピーター(食ベログみたいに点数制にしても面白いかも)。	・ S M K「瞬時に見どころ検索」を開発 ⇒どんな価値か⇒姫路の魅力を観光客・地域の家族連れに知ってもらい、 ・姫路の滞在率を増やし、お金を落としてもらう(地消地産) ・VRを使用した、当該観光地の簡易情報の取得により、集客率を高める。	・ 地域の登録事業者が発行するクーポンやイベント通知で観光客や地域のリピーターを増やす。 ・ 生年月日を登録することでその人の節日の年齢(誕生日・成人式・七五三・還暦etcetc...)の時の思い出作りの一助となる。 ・ 市内全体の企業・人とコラボしていく。	・ 30代から40代の両親の家族連れ (生活にも慣れ、情報機器の利用にも覚えがあり、子供の知育的にもお金を落としやすい。) ・ その他海外からの観光客 ・ 姫路観光大使などのコンシェルジュ (S M Kを利用しての高齢者への観光PRなどが出来るのではないかな) ・ 一度姫路を観光したことがある方 (姫路観光はリピーター少ない。主要以外の魅力を伝えてリピーターを増やしたい。)
	⑥プロジェクトを形にするために必要になってくるもの、こと		④プロジェクトの 届け方	
	・ アプリ ・ ID決済機能 ・ VR、ARシステム ・ 人材関係(コンシェルジュ・観光伝道師・アプリ運営会社)		・ SNS、DM ・ タレントの宣材写真を使用したLPの作成。(姫路出身者ならなおよし) ・ 市からの情報発信をしていただく。	

⑧このプロジェクトのためにかかる費用

参考：城崎温泉「豊岡観光DX基盤」
<https://corp.toyoooka-tourism.com/stamp-coupon/>
上記プロジェクトが3500万円必要だったことを考えて
温泉街⇒準政令指定都市規模まで大きくするのであれば、1億円くらいは必要なのでは？

⑨このプロジェクトがもたらす地域経済へのインパクト・価値

- ・観光滞在率を上げることで経済を回しやすいとする。
- ・駅前一極集中から市内全体に人の流れを起こすことで地域経済への活性化につながる。

プロジェクトを実践を通して実現したい理想の姿

2021年姫路市観光組合が合同で開発し
2028年に開設されたサービス「R.M.K(瞬時に見どころ検索)」により、姫路市を訪れる観光客が年間5,000万人を超えたことでの姫路域を中心とした観光ルートから、姫路市全域を対象としたエリアに観光ルートが展開される。
ポイントは市内の指定した場所から所要時間を入手すると、観光ルートや見所などが、また話題の場所を瞬時に検索することが出来る。ということだ。
これにより利用者は新たな観光地を見つけたかのように思われる。また全体が活性化されている。
と、開発担当者は語る。

